

會務報告

第23卷第11號 昭和12年11月

役員會記事

第15回理事會 (昭. 12. 9. 21)

出席者：大河戸會長，辰馬副會長，宮本，金子，關，沼田，榎木各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

(1) 日本工學會定款改正の認可ありたり。

(2) 東北支部役員に次の諸君選任せられたり。

商議員 青木信次君，内田泰郎君，大石 巖君，
岡崎信雄君，河合 清君，熊田隆治君，
小坂忠一君，田淵壽郎君，高田 廣君，
中原藤一郎君

幹事長 三島卯四郎君

幹事 藤田金次郎君，中島忠次君

(3) 土木學會誌第23巻第9號より第3種郵便物に認可(昭. 12. 9. 10)せられたり。

議事

(1) 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員長及委員に次の諸君を選定せり。

委員長 辰馬謙藏君

委員 安倍邦衛君，大井上前雄君，鴨下 武君，
菊池 明君，鈴木清一君，竹股一郎君，
田中 豊君，堀 信一君，水谷當起君，
山口 昇君

(2) 東北支部の昭和12年度收支豫算別紙(省略)の通り承認することとせり。

(3) 東北支部長より申出の入會勧誘に關し次の如く申合せり。

入會勧誘費として昭和12年度中入會者數に對し(割合省略)支部に補助金を交付すること。

但し第1回會費の拂込ありたる時入會手續を了したるものとしてその氏名を會員名簿に登録するものとす。

(4) 抄録用として外國雜誌7種(豫算約250円)を購入することとせり。

(5) 11月中旬講演會を開催することとし講師その他を次回に協議することとせり。

(6) 役員會及委員會開催日別紙(省略)の通りとせり。

(7) 入退會の件

大坪千年君を會員に綱谷辰正君外17名を准員に，青木康夫君外15名を學生員に，株式會社荏原製作所外1社を特別員に入會を承認し，准員川口保一君外2名を會員に，學生員梅津善四郎君外4名を准員に転格承認せり。

會員庄野豐治君外1名，准員鳥井雅太郎君外2名は死亡す。

第16回理事會 (昭. 12. 10. 4)

出席者：大河戸會長，辰馬副會長，宮本，金子，沼田各理事，柴原書記長，小野寺庶務主任，糸川編輯主任

報告

(1) 關西支部第7回役員會議事を報告せり。

(2) 前會長原田貞介君逝去せられたるに依り本會より弔詞を呈し並に花環を靈前に供す。

議事

(1) 特別員優遇に關し次の通り申合を爲せり。

(1) 特別員の廣告を土木學會誌に無料にて掲載すること。

但し支部管内特別員の廣告掲載料は本會に於て負擔すること。

1級特別員は年3回，毎回1頁。

2級 " 年2回， "

3級 " 年1回， "

(2) 特別員招待會を年1回開催すること。

但し支部管内の特別員は支部所在地に於て會長の名を以て開催し，その費用は當該支部の負擔とすること。

(2) 關西支部長申出の第1回年次學術講演會費不足金及中華民國技術官歡迎費合計736円36錢はその半額363円18錢を第1回年次學術講演會費の追加として承認することとせり。

(3) 富國徴兵保險會社より申入れの本會借室料値上げ額は借室契約當初の特定料金に比例し坪當り7円を至當と認む依てその旨を交渉し昭和12年度より實施することとせり。

(4) 第2回年次學術講演會の開催に關しては次回更に協議することとせり。

(5) 會員名簿には廣告を掲載せざることとせり。

(6) 11 月中次の通り講演と映畫の會を開催することとせり。

講演は適當なる講演者なき場合海軍普及部に依頼し、映畫は前回に引続き支那事變の映畫を続映すること。

(7) 日本工學會メートル法専用實施促進に關する調査委員會本會選出委員に山崎匡輔君、青木楠男君を依頼することとせり。

(8) 日本工學會より照會のケルビンメダル受賞候補者は本會より推薦せざることとせり。

(9) 土木學會北海道支部を札幌市に設置方別紙(省略)の通り創立發起人連署にて申請ありたり依て審議の結果次の條件(省略)にて之を承認することに申合せたり。

第 7 回常議員會(昭. 12. 9. 21)

出席者：大河戸會長、辰馬副會長、宮本、金子、關、沼田、樫木、海老、河西、藤、高橋各常議員、中川、眞田兩前會長、柴原書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報 告

- (1) 第 5, 6 回關西支部役員會議事を報告せり。
- (2) 東北支部長の依頼並に同支部役員の選任を理事會議事の通り報告せり。
- (3) 日本工學會評議員會議事並に同會定款改正認可を報告せり。
- (4) 土木學會誌第 23 卷第 9 號より第 3 種郵便物に認可(昭. 12. 9. 10)せられたり。
- (5) 秋季視察旅行は時局に鑑み中止することとせり。
- (6) 講演と映畫の夕を 9 月 24 日午後 5 時より帝國鐵道協會に於て開催することとせり。
- (7) 伊能忠敬翁遺物保存館建設費寄附者及応募金別紙(省略)の通り報告せり。
- (8) 後藤宇太郎君の後任理事の選任は次期通常總會まで補缺のまゝとし、東亞部長は宮本武之輔君が兼任することとせり。
- (9) 役員會及委員會開催日を別紙(省略)の通りとせり。
- (10) 8, 9 月分入退會別紙(省略)の通り承認せり。
- (11) 萬年會寄附工業獎勵資金昭和 11 年度の受領者を次の通り推薦せり。

土木學會内に設置の地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會。

議 事

(1) 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會を設置し委員長及委員に理事會議事の諸君を依頼することとせり。

(2) 支那事變のため応召出征せられたる會員(准員、學生員も含む)に對し出征中會費の納入を免除することとす。本件は緊急に取扱ふべき事項と認め理事會及常議員會の決議により之を實行し併して次期通常總會に附議事後承認を求むることとせり。

(3) 東北支部昭和 12 年度收支豫算(別紙省略)を承認せり。

(4) 東北支部長より申出の入會勸誘費補助の件は理事會議事の通り決定せり。

(5) 抄録用として外國雜誌 7 種を豫算約 250 円にて購入することとせり。

總 務 部 記 事

第 6 回土木學會防空施設研究委員會(昭. 12. 9. 22)

出席者：眞田委員長、内田、瀧尾、中村各委員、稻葉、町田、松井各幹事、宮本、樫木兩理事、磯谷道一君、小野寺庶務主任

協議事項

- (1) 内田委員より「鐵道設備の防空」と題するプリントを委員に配布せり。
- (2) 松井幹事より第一部「避難、防毒、照明」中「避難」施設に關する研究項目案を提出し、逐條審議をなせるも、未了に就き次回に続行の豫定。
- (3) 毒瓦斯に關する避難は「防毒」の項に於ても考慮すること。
- (4) 一時避難所に就ては更に詳細を調査のこと。
- (5) 次回は 10 月 6 日(水)の豫定

第 7 回土木學會防空施設研究委員會(昭. 12. 10. 6)

出席者：眞田委員長、内田、瀧尾、稲葉、河口、町田各委員、松井幹事、樫木理事、糸川編輯主任

協議事項

- (1) 松井幹事より前回審議に基きて改訂せる「一般避難計畫」に關するプリントを配布し、之が審議を爲せり。
- (2) 「避難道路の施設その他」に付き審議す。
- (3) 「軌道による避難計畫」を審議し原案に更に(ホ)項を加へ送電中止に關する注意を述べること。
- (4) 「都市鐵道による避難計畫」を審議し之が各項

の順序は更に幹事に於て考究すること。

(5) 更に次回以後に於て第一部の議題に關し、具体的に之を考究することを申合せたり。

第 77 回講演會及映畫會 (昭. 12. 9. 24)

會 場： 帝國鐵道協會

講 演： 支那事變に就て

陸軍歩兵少佐 大久保弘一君

映 畫： 支那事變ニュース (北支及上海) 第 1 報より
第 15 卷 東京朝日新聞社撮影

來會者： 420 名

映畫終了後同所に於て有志晩餐會を開催せり。出席者 20 名

編輯部記事

第 8 回 編輯委員會 (昭. 12. 10. 5)

出席者： 關委員長，大岡，大川，太田尾，岡崎，野坂，廣瀬各委員，糸川，中川兩編輯囑託

協議事項

(1) 第 23 卷第 10 號所載の工事寫真，討議，抄録，時報に對する謝禮を決定せり。

(2) 第 23 卷第 11 號に下記を追加す。

工事寫真： 名古屋驛地方鐵道乘入工事，竣工せる丸尾塚堤

講演： 支那事變に就て (大久保弘一)

彙報： 東京附近に於ける國有鐵道の変遷 (飯塚博)，滿洲に於ける空中コンクリート工事の一報告 (眞鍋簡好)

抄録： 最近の平阪橋 (筑瀬憲)，彈性体内のアンチブレンストレス (最上武雄)，1937 年巴里萬國博覽會に於けるドイツ館の建築 (山田正男)，熔接持送の試験 (河合宏海)，径間 53m のコンクリート樞構橋 (三好宗逸)，New England に於ける橋梁の災害 (糸川一郎)，米國土木工学の發達 (小俣弘道)

時報： 學位請求論文審査報告 (編輯部)，第 109 回道路研究會 (ノ)，名古屋驛地方鐵道乘入工事概要 (伊藤健雄)，非常時土木事業豫算に就て (編輯部)，内務省官制中改正 (ノ)，都市計畫關係決定事項 (秋月弘一)，防空施設研究會に就て (編輯部)，東京府施工東京都市計畫道路の近況 (編輯部)，長流第 2 發電所發電計畫概要 (古田一三六)，蛇田發電所發電計畫概要 (古田一三六)

新刊紹介： Theoretical and Applied Seismology

(3) 第 23 卷第 12 號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告： 送電用鉄塔の風圧に就て (會. 工. 藤. 大川平治，准. 大迫平治)，偏心軸圧力を受くる鉄筋コンクリート對稱矩形断面の算定表解法に就て (會. 工. 重松恩)，低拋物線 2 鉸アーチの振動 (會. 工. 最上武雄)

討議： 清水港岸壁の復舊並に補強工事に就て (會. 工. 松尾春雄)，同上 (著. 會. 工. 鮫島茂，會. 工. 黒田靜夫)

彙報： 階段滑り止めの一考案 (會. 高田福次)，東海道線々路増設に就て (准. 松下秀樹)，出口橋上工事概要 (竹島清一)

抄録： Berlin-Stettin 間の Oder 橋 (星楚和)，暴流溪の防禦施設 (篠原謹爾)，都市に於ける汚水灌漑處理法 (別所正夫)，地質工学の現狀，目的及其の利用 (森 茂)，コンクリートで被覆された鋼梁の計算 (篠原謹爾)，鋼支持杭の横荷重試験 (齋藤哲市)，鋼板を用ひた盛土法留工 (片平信貴)

調査部記事

第 14 回鋼橋示方書調査委員會 (昭. 12. 9. 10)

出席者： 田中委員長，沼田調査部長，青木，稻葉，瀧尾，尾崎，西岡各委員，友永幹事，糸川編輯主任

協議事項

第 12 回に於て友永幹事に依頼の各條文案につき審議の上次の如く決定す。

抗張材 第 20 條

抗張材の長さは其の断面の最小回転半径の 200 倍以下たるを要す但しアイバー及之に類するものはこの限りにあらず。

断面の重心 第 21 條

部材の連結は成るべく偏心を避け各部材の重心線は 1 格點に於て相會せしむるを可とす。

桁設計 第 22 條

桁及之に類似の構造物の断面縁応力を決定するには次式に依るべし。

$$\sigma_c = \frac{M}{I} y_c, \quad \sigma_t = \frac{M}{I} y_t \times \frac{h}{b_m}$$

但し σ_c : 抗圧縁応力 (kg/cm²)

σ_t : 抗張縁応力 (kg/cm²)

M : 該断面の曲げモーメント (kg-cm)

I : 該全断面の中立線に對する慣性モーメント

ント

y_c : 上記中立線より抗圧線維までの距離 (cm)

y_t : " 抗張線維 " (cm)

b/b_n : 蓋板全幅と蓋板純幅との比(蓋板を有する場合)

" 突縁山形の總断面積と純断面積との比(蓋板を有せざる場合)

突縁山形 第 23 條

第 12 回にて原案可決せる第 29 條を第 23 條とす。

腹板の厚さ 第 24 條

腹板の厚さは上下兩突縁山形に於ける鉋線間の距離の 160 分の 1 より大なるを可とす。及腹板の挫屈に對し Timoschenko の式による事とし原案文作成を友永幹事に依頼す。

水平剪力 第 25 條

第 12 回にて原案可決せる第 24 條を第 25 條とす。

腹板添接 第 26 條

成案を得ず次回に更に改正案作成を友永幹事に依頼す。

第 15 回鋼橋示方書調査委員會 (昭. 12. 9. 21)

出席者: 田中委員長, 青木, 稻葉, 成瀬, 小澤, 瀧尾各委員, 友永, 齋藤兩幹事

審議事項

- (1) 友永幹事文案 第 25 條腹板添接を審議の上同文案を認む。
- (2) 腹板の挫屈に對し Schleicher, Timoschenko の式を條文に入れる事につき審議あり決定をみず。
- (3) 内務省改正案と照合しつゝ各條文を審議する事とす。
- (4) 鐵道案第 33 條, 第 34 條は内務案の如く表示する事とす。
- (5) 鐵道案第 35 條は次の如く改む。

「応力を傳ふる鉋にして其の働長幹径の 4.5 倍を越ゆるときは超過 1 mm 毎に鉋の所要数を 0.007 倍宛増加すべし」

尙解説として「若し働長が幹径の 6 倍を越ゆる時は……所要直径の鉋用棒鋼の厳選, 相當時間をかけたる兩打鉋鉋, 水圧鉋鉋を許さず等の條件の下に可能なるものとす」を附す。

- (6) 鐵道案第 36 條第 37 條第 38 條は原案可決。
- (7) 第 39 條の最初の「突縁」の意味につき解説を

附す事とす。

- (8) 第 40 條中「主要部材の端繋鉋の長さは……」の「長さは」を「兩端の鉋間の距離は」と改む。
- (9) 第 41 條 原案可決。
- (10) 第 42 條, 第 43 條, 第 44 條は内務案参照の上文案を作成する事を友永幹事に依頼す。
- (11) 第 45 條原案可決。
- (12) 鐵道案第 46 條を可決, 同じ條文を内務案に加へる事とす。
- (13) 第 47 條は一部字句改正。
- (14) 内務案第 67 條, ホーク端なる條文を鐵道案にも加へる事とす。
- (15) 鐵道案第 48 條可決, 内務案第 67 條に加へる事とす。
- (16) 第 49 條, 内務案参照の上文案作成を友永幹事に依頼す。
- (17) 第 49 條として「ピンの最小直径は 75 mm とす」條文を加ふ。
- (18) 鐵道案第 50 條, 内務案第 69 條いづれも一部字句改正。
- (19) 第 51 條の項を内務案の如く桁の伸縮と項目を更め伸縮装置を 1 m に付 1.2 m と更む。解説を行ふ事とす。
- (20) 第 52 條可決解説を附す事とす。
- (21) 第 53 條脊なる項目を伸縮支承なる項目とし, 文案作成友永幹事に依頼す。
- (22) 第 54 條, 牀板の項を「牀板の厚さは 22 mm 以上とすべし」とす。
- (23) 第 55 條「基礎ボルト」の項を「礎着」なる項とし「上揚力をうくるボルトはその 1.5 倍以上の重量を有する基礎に礎着すべし」と改む。
- (24) 第 56 條の條文は特別必要を認めざる故除く事とす。

第 16 回鋼橋示方書調査委員會 (昭. 12. 9. 28)

出席者: 田中委員長, 沼田調査部長, 成瀬, 稻葉, 尾崎, 瀧尾, 小澤各委員, 友永, 齋藤兩幹事

審議事項

- (1) 腹板の挫屈に對する Schleicher (Bauing, 1935, 505) の論文に付田中委員長より説明あり現示方書に之が條文を入れ事とす。
 - (2) 鐵道案第 57 條を第 57 條 (2) とし原案を認め本案を内務案第 72 條に加へる事とす。
- 鐵道案第 57 條 (1) 及内務案第 72 條 (1) とし

ては

「床組の支間はすべて横桁に対しては主桁中心間を縦桁に対しては横桁中心間をとるを原則とす」なる条文を入れる事とす。

- (3) 鉄道案第 57 條, 内務案第 72 條に對し
端横桁として桁自重を托上しうる様, 橋脚, 橋臺の設計, 又端横桁の補強に便なる構造とすとの解説を付す事とす。
- (4) 第 58 條, 原案可決。
- (5) 第 59 條, 原案可決, 本條文を第 59 條 (1) とし, 第 59 條 (2) として「全長 7.5 m 以上連続する縦桁には伸縮装置を設くべし」を附加し, 第 59 條 (3) として内務案, 鉄道案とも「桁端片持縦桁抗張突縁には抗張鉋を附すべし」なる意味の條文を附す事とす。文案友永幹事に依頼。
- (6) 第 60 條「形鋼を使用するを可とす」なる字句を「形鋼を使用しその連結部及交點は鉋結すべし」と改む。
- (7) 第 61, 62, 63, 64, 65 條は原案可決。
- (8) 第 66 條「特別なる場合を除き鉋桁には反りを附せざるものとす」と改む。
- (9) 第 67 條, 原案可決, 之を第 67 條 (1) とし, 第

67 條 (2) として内務案と同様「蓋鉋はその兩端部には次の外側蓋鉋に達する以前にその全応力を傳ふるに充分なる鉋数を有せしめ且その長さは理論端より少くも 30 cm は延長すべし」を附加す。

- (10) 第 68 條
條文可決せるも條文中の補剛材間隔の式は Timoschenko の式に依る事とし文案友永幹事に依頼す。
- (11) 第 69 條可決。
- (12) 第 70 條反りは死荷重により水平になる様附するものとし, 文案作成友永幹事に依頼。
- (13) 第 71 條, 原案可決。

第 14 回請負工事標準契約書調査委員會(昭. 12. 9. 27)

出席者: 稻葉, 上村, 近藤, 錢高, 富永, 宮長各委員, 小野寺庶務主任

議 事

- (1) 第 1 讀會に於て修正せる契約書案を第 24 條より第 29 條まで逐條審議し第 2 讀會を終了せり。
- (2) 第 2 讀會に於て審議する修正案を印刷し各委員に配布して次回委員會までに最後の意見を徴することとせり。

入 會 及 転 格 會 員

特 別 員 (入 會)

株式會社荏原製作所	畠 山 一 清 君	3 級
川崎鉄網工場	徳安 善次郎君	"

會 員 (入 會)

大坪 千 年 君 全羅北道廳土木課

准 員 (入 會)

網谷 辰 正 君 東北振興電力株式會社	小笠原 彦 八 君 吳海軍建築部	中川 貞 雄 君 株式會社大林組
井 月 夫 君 奉天省梨樹縣公署土木科	唐 木 卓 雄 君 内務省京都鐵道改良事務所	西 村 謙 君 内務省鬼怒川改修事務所
伊藤 太 郎 君 名古屋市電氣局工務課	栗 原 太 郎 君 東北振興電力株式會社	安 仲 小 次 郎 君 株式會社同報
飯 塚 博 君 鐵道省工務局計畫課	佐 野 賢 二 君 新潟縣廳土木部	吉 田 勝 人 君 内務省本津川改修事務所
市 川 晴 夫 君 關東州廳土木課	鈴 木 重 行 君 吳海軍建築部	植 村 尙 司 君 橫濱市役所水道局工務課
大 味 加 一 君 日本製鉄株式會社	千 葉 文 一 君 同	堀 内 憲 治 君 奉天省公署土木廳河川股

学 生 員 (入 會)

青 木 庚 夫 君 東京帝大	床 尾 隆 之 君 名古屋高工	松 崎 忠 雄 君 日大高工
大 桃 三 郎 君 京城高工	鳥 巢 二 郎 君 京城高工	三 瓶 友 三 君 同
神 田 明 之 君 徳島高工	内 藤 靖 君 東京帝大	道 岡 泰 成 君 京城高工
柴 田 貞 治 郎 君 東京帝大	中 村 一 雄 君 名古屋高工	矢 野 照 雄 君 東京帝大
鈴 木 溪 二 君 同	長 濱 正 雄 君 東京帝大	山 川 尙 典 君 同

山本 勇君 京城高工

會 員 (転 格)

川口保一君 東邦電力株式会社 | 坂下芳男君 北海道北千島築港事務所 | 菱田英三君 東京府第一河川出張所

准 員 (転 格)

梅津善四郎君 都市計畫東京地方委員会 | 小林正雄君 | 長谷川英雄君 東京電燈株式会社
尾上哲介君 株式会社間組朝鮮支店 | 五味 信君 鉄道省大阪改良事務所

土木学会々員数

(昭. 12. 9. 21 日現在)

會 員	准 員	学生員	特別員	賛助員	合 計
2993	2923	557	17	21	6511

會 員 前會長 工学博士 原田 貞介君 は昭和 12 年 9 月 30 日逝去せられたり、
本會は弔詞及花環を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表す

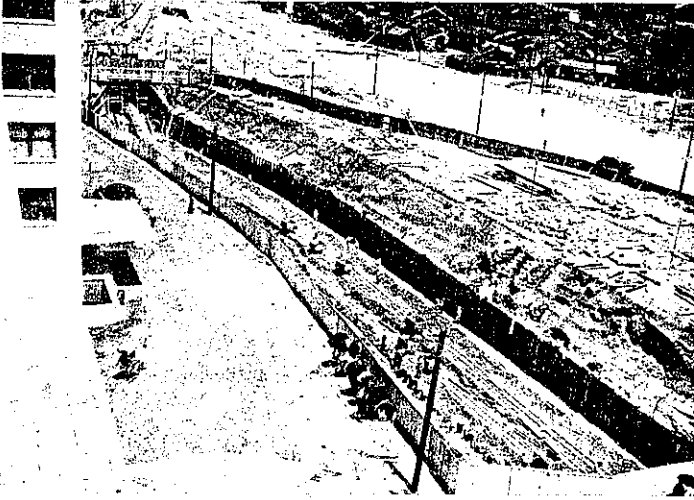
會 員 野坂 孝忠君は昭和 12 年 10 月 14 日逝去せられたり、同君は本會々誌
編輯委員会委員、コンクリート示方書調査委員会幹事、企畫委員会委員、
日本工学会セメント試験方法調査委員会本會選出委員等を兼任せられ
その功績尠からず、本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 中澤徳次郎君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 船越 勇君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

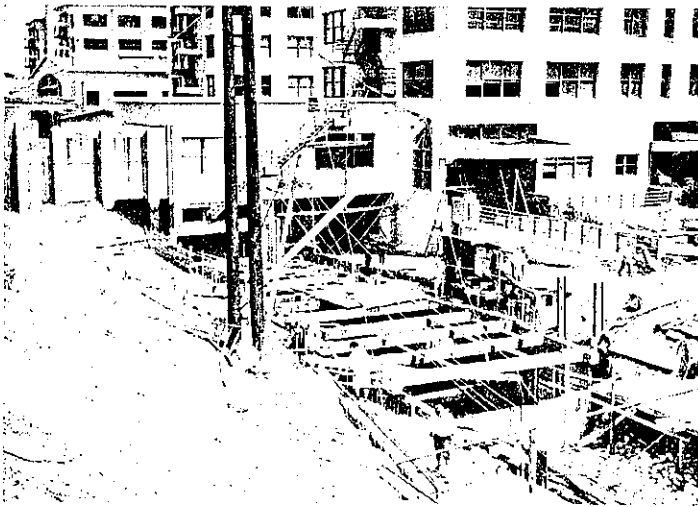
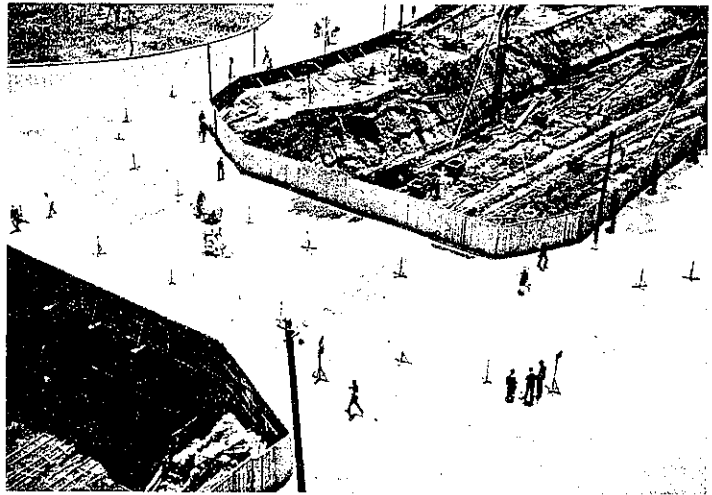
名古屋驛地方鐵道乘入工事

(時報欄参照，昭和 12 年 9 月 25 日名古屋憲兵分隊檢閱済)



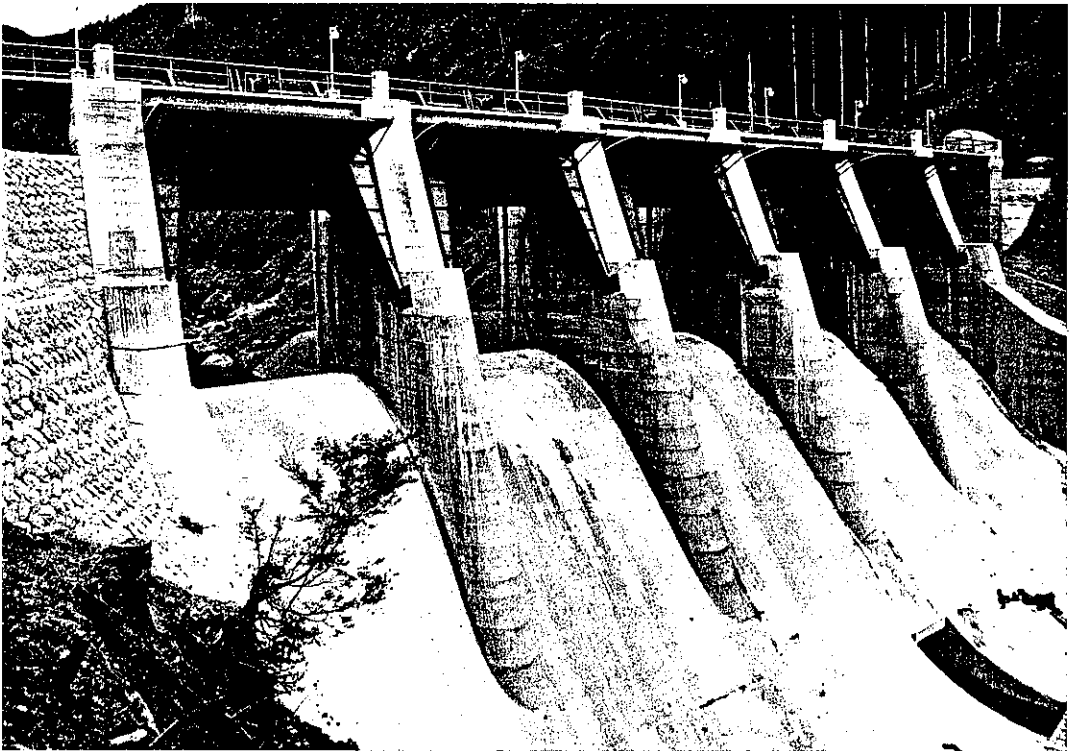
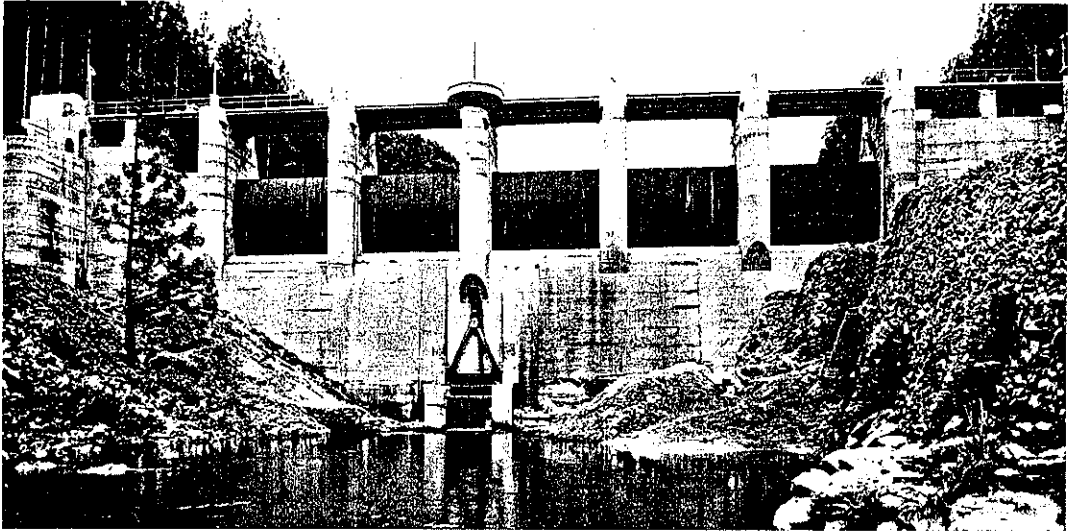
1. 名古屋驛前名古屋鐵道株式會社
地下鉄根掘工事

2. 同上
名古屋驛假出入口



3. 關西急行電鐵株式會社名古屋驛
連絡地下道根掘工事

竣功せる九尾堰堤



熊野川水系天ノ川，宇治川電氣和田発電所

型式：重力溢流型可動堰付コンクリート堰堤	全容量：1 137 069.00 m ³
高：河床上 22.8 m 内可動扉高 5.8 m	有効水深：6.00 m
長：65.5 m	有効容量：647 623.12 m ³
上，下流面法勾配：上流面 1 分，下流面 8 分	湛水面積：148 533.9 m ²
テンターゲート：高 5.8 m，幅 8 m，5 門	工費：291 300.00 円

正誤及訂正表

各種断面形状下水渠の共通勾配式に就て

(第23巻第10号附録)

頁	行	誤	正
1072	上 3	Phillip	Phillips
"	下 1	を用ふるものに於て	を用ふるものに於て
1073	上 5	$C \propto \alpha^{1.4}/(vn)^2$	$C \propto \alpha^{1.4}/(vn)^2$
"	上 7	$1/[(110/v)^{1.862}(cr)^{7/6}]$	$1/[(110/v)^{1.862}(cr)^{7/6}]$
1075	表-4 2	3.1469	3.1460
"	下 16	フォルヒハイマー式 ω に	フォルヒハイマー式に
1076	下 8	B_M	R_M
1077	上 3	$m(\theta + 1/2 \sin \theta + \dots)$	$m(\theta + 1/2 \sin 2\theta + \dots)$
1079	下 2	$= m \times 0.586 (\dots)$	$= m \times 0.586 (\dots)$
1081	下 8	$\phi = \dots = 24^\circ 56' 30.8''$	$\phi = \dots = 24^\circ 17' 42.7''$
"	下 7	$\omega = 48^\circ$	$\omega = 48^\circ 35' 25.4''$
"	下 4	1.7732	1.7466
"	下 3	$p\theta = 2r(\theta + 1.7084)$	$p\theta = 2r(\theta + 1.6961)$
1082	(12) 式の上	$p\theta = r[2\theta + (1 + \sqrt{5})$	$p\theta = r[2r + (1 + \sqrt{5})]$
1083	(13) 式の下	$(\theta + 1.7272)$	$(\theta + 1.7242)$
1087	上 17	$R_\omega = H_\omega/2r \cdot (1 - \sin \omega/\omega)$	$R_\omega = H_\omega/2 : r/2(1 - \sin \omega/\omega)$
1088	下 6	前述 (2) に	前述 (2) 式に
1089	表-15 $\alpha^{1/3}$ 欄中	.056996	0.56996
"	"	.053061	0.53061
1091	表-17 最大勾配欄中	3.356	3.056
1097	(25) 式	$(C_r^{m/k})$	$(C_{max} r^{m/k})$
"	(24.T) 式	$1/65r^{22/17}$	$1/6.5r^{22/17}$
1098	上 6	流速或は,	流速公式は,
"	(31) 式の下	マンニング或は	マンニング式は,
"	下 13	前記各流公式	前記各流速公式
"	下 4	$0.01 \times cr^{m/k}$	$(0.01 \times cr)^{m/k}$
1100	上 4	m 及 k を...	m 及 k は...
"	(31) 式の下	なるをを作製した。	なる式を作製した。
"	その下	不備があると思ふ。	不備といへば不備があるといへやう。
"	上 12	如何なる流速方式にも	如何なる流速公式にも

鉄筋コンクリート無絞拱の計算方法に就て (會員北澤忠男著)

(第1回年次學術講演會講演集)

頁	項	誤	正
61	表-4 の Circle に 關する式	$\frac{1}{8}(n-r_0') + \dots$ $+ \frac{1}{2} k_m(n - k_m \sqrt{n^2 - k_m^2} - \dots)$ $- \frac{1}{8}(n^2 - k_m^2) \sqrt{n^2 - k_m^2} - \dots$	$\frac{1}{8}(n-r_0') + \dots$ $+ \frac{1}{2} k_m(2nk_m - k_m \sqrt{n^2 - k_m^2} - \dots)$ $- \frac{1}{8}(n^2 - k_m^2) \sqrt{n^2 - k_m^2} - \dots$

會 告

講演及映畫の夕開催

下記の通り講演及映畫の夕を催します。御家族御同伴多數の御來會を希望致します。

日 時： 昭和 12 年 11 月 11 日 (木曜日) 午後 5 時より

會 場： 帝國鐵道協會 (丸ノ内 3 の 4)

講 演： 支那事變に就て 海軍中佐 水野恭介君

映 畫： 支那事變最近ニュース

映畫終了後午後 7 時より有志晚餐會を (會費 2 円當日御持參のこと) 開催致します、御繰合せ御出席下さい。

土 木 学 會

會 告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手続きを採りますから至急當學會まで御通告下さい。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員			
荒川 參太郎君	稻 葉 彌吉君	木村 貫一郎君	小 林 源次君
轟 増能君	山本 保之助君		
准 員			
和 泉 高 嚴君	池 田 乙次郎君	池 田 角太郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	栗 田 忠 治君
小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君	曾 我 進君
船 橋 貞 一君	高 橋 理三郎君	本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君
中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君	吉 田 二 億君	劉 作 禮君
濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君	水 原 譽 文君	宮 田 肇君
横 田 清 治君	石 原 三 郎君	齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君

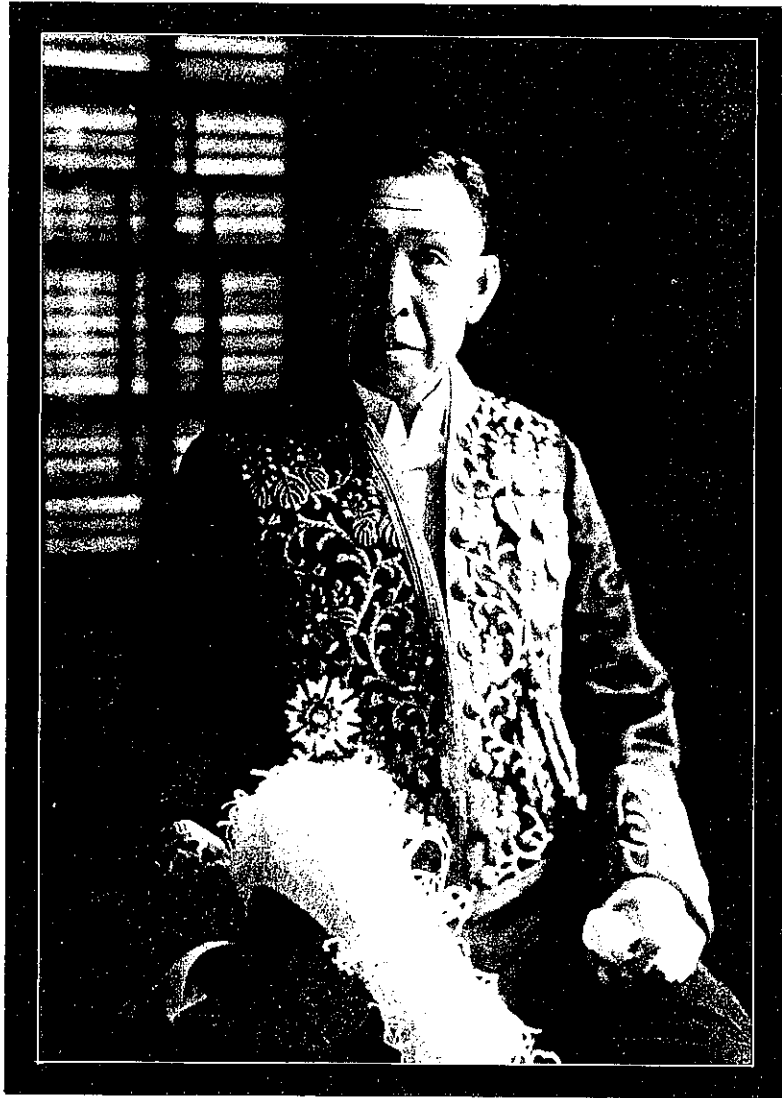
時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣工の狀況、金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織、事業に関するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣工せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。



故 前會長 工学博士 原 田 貞 介 君

故 前會長 工学博士 原田貞介君略歴

原田貞介君は慶応元年乙丑 3 月 7 日周防國室積に生る、明治 24 年ベルリン・ポリテヒニッシェ・ホッホシユール卒業後内務省に入り同 25 年 5 月土木監督署技師に任ぜられ漸時累進して大正 7 年 7 月内務技監に任ぜられ高等官一等に叙せらる、同 9 年 6 月勳二等に叙せられ瑞寶章を授けらる、同 13 年 4 月特旨を以て位一級を進められ正三位に叙せらる。

明治 31 年第 4 區土木監督署長に補せられ同 33 年 2 月歐米各國へ差遣せられ同 34 年 4 月歸朝、同 38 年 4 月名古屋土木出張所長に補せられ同 39 年 4 月在漢口日本專營居留地經營工事設計及監督を囑託せられ清國へ差遣せらる、同 40 年 5 月土木局調査課長に補せられ同 40 年 12 月清國へ差遣せらる、同 44 年 4 月下關土木出張所長に補せられ同 44 年 9 月在漢口日本專營居留地護岸維持方法考査を囑託せられ清國へ出張を仰付らる、同 45 年 3 月米國及歐洲各國へ出張を仰付られ大正 4 年 2 月工学博士の学位を授けらる、同 6 年 10 月支那水害狀況調査事務を囑託せられ支那へ出張を仰付らる。同 7 年 5 月下關土木出張所長に補せられ又港灣調査會委員、道路會議々員明治神宮造營局評議員、度量衡及工業品規格統一調査會委員、内務省所管事務政府委員、臨時治水調査會委員、臨時神戸港設備委員、臨時震災救護事務局委員、帝都復興院參與等を仰付られ、長崎、山口、大分、宮崎、鹿兒島地方森林會議々員、千住機械工場監督を命ぜらる。

大正 10 年 1 月土木學會の會長に選ばれ 1 ケ年の任期を全ふし引続き前會長として盡力せらる。

君は内務省に在りては土木出張所長又は内務技監として其の敏腕を揮ひ又各種の委員或は議員としては土木技術の樞機に參畫し終始我邦土木界のため盡瘁せられ其の功績赫々たり。

昭和 12 年 9 月 21 日疾を得て遂に起たず昭和 12 年 9 月 30 日下關市長府の邸に歿す。享年七十有三。

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、 自7月21日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日 至8月31日

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(實物大)

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁数 頁数は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書体 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば *n* と *u*, *u* と *v*, *r* と *v*, *a* と *α*, *r* と *γ*, *d* と *δ*, その他 *C* と *c*, *K* と *k*, *O* と *o* 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあける名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢（三十五錢）、13.56 円（十三円五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、
88326 t（八萬八千三百二十六噸）、昭 12. 1. 1.（昭和十二年一月一日）、
m（米）、m³（立方米）、kg（庇）、83.4 尺（八丈三尺四寸）
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し。（本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照）。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 図表 (1) 図表は図-1、表-1. 等と書き図表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 図表の文字、數字は特に大きく書かれ度し（縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し）。
(7) 図表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及邦文要旨並に著者の職名及勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には感謝を呈します。
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5		*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00
6		-	-	-	-	-	*	-	-	-	-	-	-	1.00
7		-	*	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	1.50
8		*	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00
9		*	*	*	-	*	*	-	-	-	-	-	-	2.00
10		-	*	*	*	*	*	-	-	-	-	-	-	2.00
11		-	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00
12		-	*	*	-	*	*	-	-	-	-	-	-	2.00
13		-	*	*	-	-	*	-	-	-	-	-	-	2.00
14		*	*	*	*	*	*	-	-	-	-	-	-	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18		-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*	-	1.00
19		*	*	*	-	*	*	*	*	*	*	*	-	1.00
20		*	*	*	*	-	-	*	-	-	*	*	*	1.00
21		-	-	-	*	*	-	-	*	-	*	*	*	1.00
22		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23		-	*	*	-	-	*	*	*	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號) 1.50 第 21 巻第 7 號 (會誌索引付) 1.30 震害調査報告書(1,2,3) 18.00 応用力学聯合大會講演集 1.00 鉄筋コンクリート標準示方書} 1.00 風上解} 1.00 土木工學論文抄録 3.50 土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號) 0.50 昭和 9 年關西地方風水害調査報告 1.80 土木工學用語集 2.50 (送料別)														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣告初頁		1 回 1 頁	40 円
	裏表紙 3 面		1 回 1 頁	70 円
	色アート		1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIII, NO. II, NOVEMBER, 1937.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	103
Address,	
On the Chinese Incidents.	
<i>By Major, Kōiti Ōkubo.</i>	1181
Papers,	
On the Rail Welding and the Construction of Concrete Track Bed in Senzan Tunnel.	
<i>By Tyūzaburō Satō, C.E., Member,</i>	
<i>Kenzi Kanō, C.E., Member.</i>	1193
On Discharge Formula for Conduits of Various Shape of Cross-Section layed under such Gradient that neither Scouring nor Deposition occurs in the Conduits.	
<i>By Teikiti Kitasawa, C.M., Member.</i>	1205
On the Maintenance of Railway Tracks in Frosty Land.	
<i>By Kinsyūrō Takata, Member.</i>	1215
Notes on Matters of Interest.	1249
Abstracts of Selected Articles.	1269
Current Notes.	1309
Patent News.	1319
New Publications.	1321

OFFICE

No 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.